

戦場と化した。反アマル連合軍は、ベイルート郊外へ追い出された。アラブ大周辺から始まつた戦闘は、南部のパレスチナキャンプの包囲封鎖を続け、「キャンプ戦争」の状態は続いていた。こうしたなかで西ベイルート自身が内戦状態となつた。

二月一五日から二〇日までの西ベイルートは、全面的な戦闘と化していった。アマルは、西ベイルート郊外、南部のパレスチナキャンプの包囲封鎖を続け、「キャンプ戦争」の状態は続いていた。こうしたなかで西ベイルート自身が内戦状態となつた。

二月一五日から二〇日までの西ベイルートは、全面的な戦闘と化していった。アマルは、西ベイルート郊外、南部のパレスチナキャンプの包囲封鎖を続け、「キャンプ戦争」の状態は続いていた。こうしたなかで西ベ

アマルの支配下にあつたすべての地区からアマルを追い出そうとした。この戦闘が市内の無政府状態を作りだし、西ベイルート市民は、一步も家から外へでられぬ状態となつた。これはアマルのパレスチナキャンプの長期包囲封鎖というやり方、また、アマルの支配に対し積もり積みの怒りが爆発したのである。ドル・アラブ通り、マズラ通り、と市の繁華街は言うにおよばず、いたる所が戦場と化した。

二月一五日から二〇日までの西ベイルートは、全面的な戦闘と化していった。アマルは、西ベイルート郊外、南部のパレスチナキャンプの包囲封鎖を続け、「キャンプ戦争」の状態は続いていた。こうしたなかで西ベイルート自身が内戦状態となつた。

二月一五日から二〇日までの西ベイルートは、全面的な戦闘と化していった。アマルは、西ベイルート郊外、南部のパレスチナキャンプの包囲封鎖を続け、「キャンプ戦争」の状態は続いていた。こうしたなかで西ベ

目次

シリアのベイルート介入とICO以後の中東情勢	1
シリア軍の西ベイルート介入過程（資料①）	5
西ベイルート停戦五者声明主旨（資料②）	9
シリア軍事介入への反応（資料③）	9
シリアによるレバノン軍事介入の歴史（資料④）	11
激動の中東下キュメント（1987年2月6日～3月6日）	12



発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

る新聞社の近くに事務所を開いたこと、シリア派地区に居住する共産党の指導的メンバーの殺害であるとされる。しかし、レバノンにおいては、どのようなことでも戦闘のきっかけになる状況にあり、きっかけそのものにな

は意味がなくなっている。最初のレバノン共産党とアマルの戦闘も、また、同様である。むしろ、下層人民を組織しようとなれば実体としては宗派運動としてのアマルとの対立にならざるをえない構造があつたのである。したがって、これまでも両組織間で戦闘があつたのである。他の組織もまたアマルの勢力拡大と支配を快く思つていなかつたし、しばしば暗殺や小さな衝突を繰り返してきた。アルもまた、歴史的に地域的に区別されたレバノンの支配構造の改革を政治的に果たそうとすれば、歴史的に自らの地域基盤を持たないためにそれを手に入れることができない。そのため、それがまた、戦闘の根拠となってきた。

しかしレバノン共産党、PSPの意図はどうであれ、西ベイルートは戦場と化し、無政府状態の極限となってしまったのである。そして、カラミ首相、フセイニ国議長、ホスマ相の三人が、政府が何もできない状態にあることを理由に、辞任表明をする事態となつた。

こうした状態を終わらせるための努力は一七日になつて、ダマスカスで始まつた。ハイ(レバノン共産党議長)、ジュンブラット(PSP)が殺された他に、通告を遵守しなか

た。それと同時に、シオニストとの直接的戦争を避けつつシオニスト、米帝の介入の条件となるレバノン民衆主義者内での混亂を阻止し、対シオニスト戦略的均衡の一歩としている。

その安定化の実現形態は、すでに八五年末の『三者合意』のなかで表

た。それはシリアが現在の戦略を大幅に転換したのか、そうでないのか

をめぐっての憶測、推測であった。

八二年来の大規模な本格的介入

(資料参照)をやるには、第一に、

大部隊維持のための資金問題、第二

には、レバノン沖で介入の機会を窺

つたものが殺されている。とくに反するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シリアのより大規模な介入が予測されていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の事務所を閉鎖し、戦闘部隊を南部へ移動させた。四八時間の期限の切れ

た二四日の午後五時半から、シリア軍は西ベイルートに展開し民兵事務所をおさえていった。この過程で二〇人前後のハジビッラーのメンバー

が殺された他に、通告を遵守しなか

た。

シリアの軍事的介入の結果、シリア軍が対象としているのはレバノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第一に、東ベイルートおよびキリスト教徒地区。ジェマイエル大統領

は、すでにレバノン再建について暗黙の了解があると言われており、実

際には、ペカーにも統制を行うだろう。

しかし、この安定化過程は、誰が

パレスチナとの関係では、現在のシ

リア軍が対象としているのはレバノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第二には、帝国主義と反動による包囲封鎖を打破するための帝国主義、反動諸国との関係の改善である。

こうしたシリアの意図と役割は一

つたものが殺されている。とくに反

するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツ

ダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦

闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シ

リアのより大規模な介入が予測され

ていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦

車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民

兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の事務所を閉鎖し、戦闘部隊を南部へ移動させた。四八時間の期限の切れ

た二四日の午後五時半から、シリア軍は西ベイルートに展開し民兵事務所をおさえていった。この過程で二

〇人前後のハジビッラーのメンバー

が殺された他に、通告を遵守しなか

た。

シリアの軍事的介入の結果、シリア軍が対象としているのはレバノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第一に、東ベイルートおよびキリスト教徒地区。ジェマイエル大統領

は、すでにレバノン再建について暗黙の了解があると言われており、実

際には、ペカーにも統制を行うだろう。

しかし、この安定化過程は、誰が

パレスチナとの関係では、現在のシ

リア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第二には、帝国主義と反動による包囲封鎖を打破するための帝国主義、反動諸国との関係の改善である。

こうしたシリアの意図と役割は一

つたものが殺されている。とくに反

するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツ

ダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦

闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シ

リアのより大規模な介入が予測され

ていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦

車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民

兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の事務所を閉鎖し、戦闘部隊を南部へ移動させた。四八時間の期限の切れ

た二四日の午後五時半から、シリア軍は西ベイルートに展開し民兵事務所をおさえていった。この過程で二

〇人前後のハジビッラーのメンバー

が殺された他に、通告を遵守しなか

た。

シリアの軍事的介入の結果、シリア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第一に、東ベイルートおよびキリスト教徒地区。ジェマイエル大統領

は、すでにレバノン再建について暗黙の了解があると言われており、実

際には、ペカーにも統制を行うだろう。

しかし、この安定化過程は、誰が

パレスチナとの関係では、現在のシ

リア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第二には、帝国主義と反動による包囲封鎖を打破するための帝国主義、反動諸国との関係の改善である。

こうしたシリアの意図と役割は一

つたものが殺されている。とくに反

するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツ

ダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦

闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シ

リアのより大規模な介入が予測され

ていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦

車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民

兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の事務所を閉鎖し、戦闘部隊を南部へ移動させた。四八時間の期限の切れ

た二四日の午後五時半から、シリア軍は西ベイルートに展開し民兵事務所をおさえていった。この過程で二

〇人前後のハジビッラーのメンバー

が殺された他に、通告を遵守しなか

た。

シリアの軍事的介入の結果、シリア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第一に、東ベイルートおよびキリスト教徒地区。ジェマイエル大統領

は、すでにレバノン再建について暗黙の了解があると言われており、実

際には、ペカーにも統制を行うだろう。

しかし、この安定化過程は、誰が

パレスチナとの関係では、現在のシ

リア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第二には、帝国主義と反動による包囲封鎖を打破するための帝国主義、反動諸国との関係の改善である。

こうしたシリアの意図と役割は一

つたものが殺されている。とくに反

するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツ

ダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦

闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シ

リアのより大規模な介入が予測され

ていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦

車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民

兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の事務所を閉鎖し、戦闘部隊を南部へ移動させた。四八時間の期限の切れ

た二四日の午後五時半から、シリア軍は西ベイルートに展開し民兵事務所をおさえていた。この過程で二

〇人前後のハジビッラーのメンバー

が殺された他に、通告を遵守しなか

た。

シリアの軍事的介入の結果、シリア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第一に、東ベイルートおよびキリスト教徒地区。ジェマイエル大統領

は、すでにレバノン再建について暗黙の了解があると言われており、実

際には、ペカーにも統制を行うだろう。

しかし、この安定化過程は、誰が

パレスチナとの関係では、現在のシ

リア軍が対象としているのはレバ

ノン民兵にあり、それが一定終わつた段階でその再規定がなされていくと予測されている。

第二には、帝国主義と反動による包囲封鎖を打破するための帝国主義、反動諸国との関係の改善である。

こうしたシリアの意図と役割は一

つたものが殺されている。とくに反

するアマルの指導者べリと話し合つたのである。また、辞任を表明して

いた三人もダマスカス入りし、カツ

ダム副大統領を初めとするシリア政

府の代表団と話し合い事態収拾の努力がなされた。そして、停戦の合意に達した。

しかし、停戦合意は無視され、戦

闘は続いた。シリアは四〇〇人の部隊を停戦監視目的で入れていたが、シ

リアのより大規模な介入が予測され

ていた。

二二日になつて、シリアは、七〇〇人の大部隊、一〇〇台以上の戦

車を西ベイルート郊外に集結させた。

そして、西ベイルートのすべての民

兵に対しても次のように通告した。

一、四八時間内の武装解除

二、民兵事務所の閉鎖

三、レバノン人人質の釈放

各民兵組織は、西ベイルート内の

1987年4月30日 第22号 月刊 中東レポート

シリア軍の西ベイルー

(四) ベイルートの国際赤十字に、四〇〇人アラブ人政治犯釈放要求リスト届く。内訳はレバノン人三一〇人、パレスチナ人九〇人。

(五) イスラエルのペレス外相、「イスラエル兵四人とアラブ人四〇〇人の交換は、見えるようになった」と語る。ただし、「イスラム・ジハードからも、米からのコンタクトがない。ベリの人質スワップ提案については、米人人質との関連の保証がない」と語る。

(六) 米帝は、同件での対イスラエル交渉を否定し、「イスラエルに交換をすすめず」としている。シユルツは、相変わらず強硬で、「人質とひきかえの身代金は支払わない誘拐者はけだものだから、処罰の

て、各派間の政治レベルでの調整も行われる。明日、再び試みられるだろう。アマルが妨害。通行不許可にした。仏外相、レバノンのパレスチナキヤンプへの食糧輸送協力に合意す。

人質問題

シーア派とイスラエルの人質交換秘密交渉を、英紙が暴露。"同交渉は四ヶ月間続いており、四人の米人人民とのスワップ提案前から。現在の交渉段階は、英國国教会特使テリー・ウェイットも対象とするか否か。シリアが介入することは、英-シリアル関係断絶の現状から、難しい"とのこと。

の調整も
にした。
う。
ハチナキヤ
旨意す。

・イスラエル、サイダ近

タヅューで、
ルに対し、
行わぬよう
を否定す。
王、シリア
同パトロー
衝突し、同
二五人を捕
兵は一二入
接触に行く
大統領の主
郊のミーエ

郊のミーハ

- 5 -

③原則として宗派制の廃止
ジエマイエル大統領のこうした方向に對して、LFのジャジャは、強硬に反対し、マロン派のカントンを主張して譲らないとされている。今回シリア軍の西ベイルートの大規模介入に対しても「東ベイルートの側も、外國勢力の介入を要請しうる」と発言し、さらには「大統領権限、レバノン国軍の地位に關して一切の妥協はありえぬ」と、断固反対を表明している。ICOサミット直後と噂されていたシリア「レバノンサミット実現延期の背景には、東ベイルート内の足並の乱れがあるのである。シリア軍の西ベイルート平定、山岳部への展開は、東ベイルート内の意見調整を要求するものとしてあるだろう。とくに、ペルート空港が安全になれば、東ベイルート側のハラト空港開港の正当性（「人間的、經濟的、社会的根拠から」と言われてきた）が切り崩されてしまった。ラミ首相も「東ベイルート側の回答を待つのみ」として、出方を待つている。

の動きである。ドルーズは、現在ハルデ、ジーレの二港を建設運営し、シユーフ山からサイダ港までの道路を建設するなど、ドルーズ・カントンを握っている。シユーフ山岳にパレスチナ勢力が砲陣を構えて、西ベイルートを砲撃できるのも、ドルーズの默認があつたからであるし、西ベイルート、南部への陸路はドルーズ地区を通過せねばならない。すでに、シリア軍とレバノン第十二旅団がサイダ街道に展開して、前出の「二つの違法港」はおさえられていくのをコントロールしていくだろう。これを不満とするドルーズの側は、反シリア勢力（アラファト派等のパレスチナ勢力、スンニ派等）と連携して、自派権益の拡大、防衛をはかるうとするだろう。

ハジビッラーは、レバノン・イスラム共和国を要求しているシーア派の宗派組織である。もちろん、イラムがこれを支援し、ベイルート南部郊外、ベカー、南部に拠点を作っている。同じシーア派でもアマルとの相違は、イラン派として明確にイスラム革命を掲げていて、これは旧い宗派政治（マロン派とスン

換させることをめざす分、非宗教的統一国家へ向けた方向とは逆行するものとしてある。とくにイランが後楯して、イラン革命防衛軍部隊を送りこみ（八二年のイスラエルによるレバノン侵略）、三月七日には、イラン大使が着任（レバノン政府が与えられた）するなど、シリアルアのアラブ民族主義の立場強化によるイランとの矛盾はレバノン安定化にとって無視できぬ存在となつてゐる。

戦権となろう。アマルは、二月一四日段階でレバノン—パレスチナ関係の新段階をパレスチナ人がキャンプ外へ勢力を拡大しないこととして、次のように言つてゐる。

①レバノン人と同等の権利と義務の保障

②政治闘争権の保障

③敵に対するレジスタンス統一作戦本部の枠内で、自らの闘争を推進する権利の保障

これから言えることは、アマル側の回答は、六・一八合意の枠内にあり、いわばパレスチナ側の望む独自の決定権の否定であろう。アマルは、一五日段階では南部のラシャディエキャンプの封鎖を一日数時間に限り解除し、一八日段階で西ベイルートの三つのキャンプの包囲封鎖を解除したもの、遠まきにしてゐる。しかも、西ベイルートでは、その外側にシリアル軍が配備される構造になつてゐる。

こうした矛盾の所在をおさえつつシリアルは、東西ベイルートのバランスをとり、安定化を進めていくだろう。これへの抵抗が予測されるが、七〇〇〇というシリアルの軍隊は、どの党派も実現しえなかつた日常生活

アマル、西ベイルートのボルヂ・バ
ラージネキャンプへの食糧・医療品
搬入を許可す。

・ジャーナリスト同盟会議、二日間の日程を終える。反アラファート派の大半の組織も代表派遣し、昨年の分裂会議から比べると、PLO再統一の動きが軌道に乗りつつあることを示した。会議冒頭で、アラファト議長は、「次は、政治的統一の達成」と呼びかけた。また、会議と並行し

(二)シリアが、アマルとパレスチナ勢力双方に、停戦をよびかける。

②米国務省スポーツマンによると、"国連の努力を支持し、限定援助を行う"。東ベイルートの米大使館は、"状況把握不十分なので、アル批判はできない"と語る。

（三）「キャンプ戦争」
①ボルヂ・バラージネに国連が食糧搬入時、銃撃受ける。国連職員一名死亡。

②アマルは、物資をキャンプ近くのシーア住民と平等に分けるよう、国連に要求。

③アマル側が停戦条件としていた南

戦権となろう。アマルは、二月一四日段階でレバノン－パレスチナ関係の新段階をパレスチナ人がキャンプ外へ勢力を拡大しないこととして、次のように言っている。

① レバノン人と同等の権利と義務の保障

① レハノン人と同等の保障

は、二月一四
レスチナ関係
人がキャンプ
こととして、
の権利と義務

①米国防省、"米人人質が一名でも傷つけば、(レバノン沖の)第六艦隊はテロリストを攻撃する"と発表。

②空母「クニヒー号」の代りの空母キティ・ホーク号、レバノン沖への到着遅れている。

一四日 【キャンプ戦争】

①ベリ、「レバノン・パレスチナ関係の新段階が始まる。ボルヂに大量の食糧・医療品供給了。ラシャディエにも同じ量が供給されるだろう」と語る。

新段階とは、パレスチナ人がキャンプ外へ勢力拡大しないことを基本とする。そのうえで、

①パレスチナ人は、レバノン人と同等の権利と義務を享受できる。

②パレスチナ人は、政治闘争の権利を有す。

③パレスチナ人は、自らの闘いを推進する権利を有する。それは、敵に対するレジスタンスのため

④アサド大統領と前記の五者が会談。停戦のためにシリア軍四〇〇〇〇の部隊の西ベイルートへの進駐決定伝えらる。

一九日 アマル対反アマルの闘い

①ドルーズ・共産党の連合軍が優勢の中に、戦闘は停止。

②シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

③ジュン・ブラット、ハウイ(共産党議長)、夜ダマスカスへ。ベリとの会談のため。

二〇日 アマル対反アマルの闘い

①戦闘継続が伝えられる。五日間の戦闘による被害は、死者二〇〇人以上、負傷者四〇〇人以上。

②シリア軍二〇〇、レバノン軍七五〇の部隊が、戦闘阻止のために、西ベイルート市内に展開。

③ダマスカスから各派指導者が西ベイルートにおける戦闘の即時停戦、各派民兵撤収のよびかけ。首相、国会議長、ダマスカスへ。文相、ベリの五者が停戦合意に署名(資料参照)。

④シリア軍一・レバノン軍七五〇の部隊が、戦闘は停止。

⑤シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

⑥シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

⑦シリア軍大部隊が、ベイルート郊外に集結しだす。

⑧シリアのカッダム副大統領は、イスラム左派リーダーをダマスカスに招請し、停戦仲介にのり出す。

⑨シリア軍大部隊が、ベイルート郊外に集結しだす。

一九日 アマル対反アマルの闘い

①ドルーズ・共産党の連合軍が優勢の中に、戦闘は停止。

②シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

③ジュン・ブラット、ハウイ(共産党議長)、夜ダマスカスへ。ベリとの会談のため。

二〇日 アマル対反アマルの闘い

①戦闘継続が伝えられる。五日間の戦闘による被害は、死者二〇〇人以上、負傷者四〇〇人以上。

②シリア軍二〇〇、レバノン軍七五〇の部隊が、戦闘阻止のために、西ベイルート市内に展開。

③ダマスカスから各派指導者が西ベイルートにおける戦闘の即時停戦、各派民兵撤収のよびかけ。首相、国会議長、ダマスカスへ。文相、ベリの五者が停戦合意に署名(資料参照)。

④バグダッドにて、PLO声明発表。他のアラブ和平維持軍か、国連軍の派兵を求めた。

1987年4月30日 第22号

①米国防省、"米人人質が一名でも傷つけば、(レバノン沖の)第六艦隊はテロリストを攻撃する"と発表。

②空母「クニヒー号」の代りの空母キティ・ホーク号、レバノン沖への到着遅れている。

一四日 【キャンプ戦争】

①ベリ、「レバノン・パレスチナ関係の新段階が始ま。ボルヂに大量の食糧・医療品供給了。ラシャディエにも同じ量が供給されるだろう」と語る。

新段階とは、パレスチナ人がキャンプ外へ勢力拡大しないことを基本とする。そのうえで、

①パレスチナ人は、レバノン人と同等の権利と義務を享受できる。

②パレスチナ人は、政治闘争の権利を有す。

③パレスチナ人は、自らの闘いを推進する権利を有する。それは、敵に対するレジスタンスのため

④アサド大統領と前記の五者が会談。停戦のためにシリア軍四〇〇〇〇の部隊の西ベイルートへの進駐決定伝えらる。

一九日 アマル対反アマルの闘い

①ドルーズ・共産党の連合軍が優勢の中に、戦闘は停止。

②シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

③ジュン・ブラット、ハウイ(共産党議長)、夜ダマスカスへ。ベリとの会談のため。

二〇日 アマル対反アマルの闘い

①戦闘継続が伝えられる。五日間の戦闘による被害は、死者二〇〇人以上、負傷者四〇〇人以上。

②シリア軍二〇〇、レバノン軍七五〇の部隊が、戦闘は停止。

③ダマスカスから各派指導者が西ベイルート市内に展開。

④シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

⑤シリア軍大部隊が、ベイルート郊外に集結しだす。

一九日 アマル対反アマルの闘い

①ドルーズ・共産党の連合軍が優勢の中に、戦闘は停止。

②シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

③ジュン・ブラット、ハウイ(共産党議長)、夜ダマスカスへ。ベリとの会談のため。

二〇日 アマル対反アマルの闘い

①戦闘継続が伝えられる。五日間の戦闘による被害は、死者二〇〇人以上、負傷者四〇〇人以上。

②シリア軍二〇〇、レバノン軍七五〇の部隊が、戦闘は停止。

③ダマスカスから各派指導者が西ベイルート市内に展開。

④シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

⑤シリア軍大部隊が、ベイルート郊外に集結しだす。

一九日 アマル対反アマルの闘い

①ドルーズ・共産党の連合軍が優勢の中に、戦闘は停止。

②シリア軍一・レバノン軍の共同パトロール開始。

③ジュン・ブラット、ハウイ(共産党議長)、夜ダマスカスへ。ベリとの会談のため。

二〇日 アマル対反アマルの闘い

①戦闘継続が伝えられる。五日間の戦闘による被害は、死者二〇〇人以上、負傷者四〇〇人以上。

なりゆきを注目していく』——イスラエル政府

④レバノン右翼

a ジエマイエル大統領

「責任ある（イスラム）指導者のうちの数人が、姉妹国シリアに直接の援助要請をせざるをえないほどの人間的悲劇が繰り重ねたことは理解する。——しかし、この一方的な措置が違憲行為であることは、はっきりさせておきたい。」

b ジヤジャレF司令官

「シリア軍介入が、戦闘終結にはならないと信ずる。たとえ、この介入が一時的・直接的な結果をもたらすとしても、さらなる衝突を準備することになる。——首相以下（三人の大臣と国會議長が）シリア軍介入要請は合法であると主張しているが、それでは、他の大臣が、レバノンの他の地区に米国の介入要請を行ったら、これも合法なのだろうか？」

c シャムーン蔵相

「この介入は違憲であり、レバノンにおける人間的疎外を深めるのみ。——もし、米国務相シュルツが、シリアルア軍による西ベイルート介入は正常化に有効と判断したとするなら、きっと頭がおかしくなったのだろう。」

d マロン派教会声明主旨

レバノン政府は、シリア軍のレバノン駐任務終了要請しているが、マロン派教会は、レバノン分割阻止、レバノンの和平確立のために、シリアルア軍が任務を完遂してほしいと願う。

自家撞着する発言を繰り返してもいるし』

レバノン政府は、シリア軍のレバノンの和平確立のために、シリアルア軍が任務を完遂してほしいと願う。

B 味方（反帝派）

公式的支持声明。静観する態度。レバノン共産党は、介入の直接的原因を作ったことで、党内論争になつているとされる。なぜなら、党大会でも、レバノン民族派との統一戦線強化を第一とすると決議したのに、実情は、逆になつてしまつたからである。

①レバノン主体

『今回の介入は、現時点で中東における最も大きな出来事。が、その結果がどうなるか、これは、まだ判断できない。レバノン問題が新しい段階に入ったことは明らかである。』

②パレスチナ組織

レバノン問題を解決するうえで、八四年の闘いでうち破り、五・一七定討議から除外されていることに、当然ながら、不安を抱いている。

a PFLP

『今回の介入は、現時点で中東における最も大きな出来事。が、その結果がどうなるか、これは、まだ判断できない。レバノン問題が新しい段階に入ったことは明らかである。』

b ファタハ整風派（アブ・ムサ派）

『シリア軍介入により、民族的、民衆的改革を求めて闘ってきたレバノンの苦闘が終了することを望む。シリアルア軍介入は重大な措置。この介入が、パレスチナーレバノンの戦闘的関係組織化につながるであろう。』

c その他

『シリア軍の西ベイルート再展開は、スチナ勢力がレバノン愛國勢力と協力して敵の宗派政治継続の陰謀をしている。レバノン、パレスチナに限らず、アラブ人民大衆は、アマルの本音が何なのか、これを疑問視しているのである。』

d PNSF

『シリア軍の西ベイルート再展開は、ナ人の存在を守るために』外國軍を導入すべし』を非難す』 二月二三日

合意を破棄させ得た教訓を思いおこそう。パレスチナーレバノン民族勢力は、レバノンにおけるレジスタンスの民主潮流をシリアが支持するよう努力してきた。この闘いにおいて、アマルが民族綱領実現、レバノンの解放、民主的改革へむけた闘いの隊列から離反し、民族派同盟を弱めていった。これは、中東に対する帝国主義ーシオニスト反動のキヤンプ・デービッド陰謀進行の前段としてある。

レバノン統一堅持の保障である。レバノン危機解決を妨害してきた敵の企てをうち破るものとしてある。西ベイルートのパレスチナキャンプ防衛、通常の生活を保障し、パレスチナ勢力がレバノン愛國勢力と協力して敵の宗派政治継続の陰謀をするには、対ファシスト同盟で最前線で闘ってきたという事実にもかかわらず、さらには、ダマスカス合意に基づく現在進行しているレバノンの進路決定討議から除外されていることに、当然ながら、不安を抱いている。

なぜアマルはキャンプ包囲を続けるのか？ レバノン、パレスチナに限らず、アラブ人民大衆は、アマルの苦闘が終了することを望む。シリアルア軍介入は重大な措置。この介入が、パレスチナーレバノンの戦闘的関係組織化につながるであろう。』 二月二二日

アラファト派の要求（「パレスチナ人の存在を守るために」外國軍を導入すべし）を非難す』 二月二三日

二月二〇日（金）

二月二一日（土）

米帝

- ・ワシントンポスト紙、「ローズ計画」という対リビア軍事侵攻・占領計画（エジプトとの共同）があったことを暴露す。
- ・イラク外相訪ソ。ソ連書記長との会談で、即時停戦の用意ありと語る。
- ・イスラエル
- ・南ア経済制裁を行うと、イスラエルは五億ドル前後の損失となり、最も打撃を受けるのはIAI（国立航空工業社）になろうと、イスラエル紙が伝える。

エジプト

・スー丹との間に、ヌメイリ政権
時の「統合憲章」にかわる「同朋
憲章」を調印。経済・教育・文化・
運輸・通信分野での協力推進を中
心とす。

二月二三日（月）

イラン－イラク戦争

① イラン軍、南部戦線で攻勢。バ
スラ市方向に向け進撃。

② イラクは、イランがバスラ市を
砲撃しているとし、停戦違反を非
難す。

二月二四日（火）

P L O

二月二六日（木） イラン—イラク戦争にとつて基本条件」

モロツコ

・U A Eとの間に航空運輸・電話通
信合意を調印。八二年に合意した
両国の航空機直接乗り入れ、電話
直接回線施設等を実行していくた
め。

二月二七日（金） イラン—イラク戦争

・ロイター電によると、カルバラ工
政攻撃で受けた被害はバカラ市近く
の（広さ）七キロメートル（深さ）二、
三キロの領土をイランに占領され
一四機損失。ただし、イラン軍二
〇万をせん滅（イラク軍発表）。

- ・ヨルダン抗議。
- ・ムバラクペレスの「八七年度に国際会議開催を」の呼びかけに、公式にはノーコメント。
- ・エジプト
- ・公私企業代表団（四〇人）、輸出振興、投資誘致へ向け、U.A.Eへ、この後、バーレーン、オマーン、カタール、クウェートへ回る。
- ・EC-GCC経済関係
- ・オランダ政府代表は、ECによる対GCC石化製品関税障壁（一三%を最高とす）に反対。無関税を主張している。オランダは、サウジアラビアに潜水艦を売りたい章

ル相当)に謂印エジプト政府は、IMFの要求する「経済自由化」に合意した。同合意成立により、世銀もエジプト農業・工業に八億ドルのローンを与える。ただし、IMFは、四月の理事会で同合意を了承せねばならない。

ヨルダン

- ヨルダン訪問終えた北イエメン副首相との共同声明発表。

・ クウェート中央銀行総裁によると
一年以内にGCC統一通貨導入の
見込み。今年一ヶ月のGCCサミ
ットで了承されてから、実行され
ることになる。

二月二十五日（水）

・イラン－イラク戦争

近くの戦線で電撃作戦敢行、イラク兵二〇〇〇をせん滅”とのこと

イスラエル

・ペレス、カイロへ。

・商工相シャロン、新設の欧州－イスラエル商工会議所第一回会議に出席（ベルギー）。曰く「対EC

- ・二月二八日から一週間、モロッコ実業界代表団のイスラエル訪問を、イスラエル政府が発表。
- 二月二八日（土）
- 三月一日（日）
- 仏
- ・アブドラ裁判で、終身刑判決を下す。
- 二月二八日から一週間、モロッコ実業界代表団のイスラエル訪問を、イスラエル政府が発表。

● 國際會議問題

① ラビン国防相曰く「ヨルダン國王との和平會談がなくならない限り、國際會議は必要ない。エジプトとのより広い和平を進め、ヨルダン（政府と、非P.L.O.のパレスチナ人の代表）との直接對話が必要」

② ペレス外相、訪欧へ。EC外相會議が中東問題を扱うので、それに向けた事前工作。

・社会・経済

③ 失業、望むような職がないのを不満とし、五人に一人は、海外移住を望んでいる。

④ ベン・グリオン病院で、サービス労働者が四八時間ストを行う。

④ P F L P のために活動していた
という容疑で情報センター閉鎖さ
る。同センターのユダヤ人マネー
ジャーは逮捕され、他のユダヤ人
事務員も尋問される。

二月一七日（火）

イラン－イラク戦争

- ・イラン、西独のT V 番組がホメイ
ニ師を侮蔑したとして、駐テヘラ
ン西独大使館員三名追放を通告。

七二時間以内の追放。

P L O

首相が国際会議に反対しようとする。自分は主張し続ける。これを否めなければ、どのような和平もありうぬ」

- 公立病院労働者のスト、来週に決定。藏相とヒスター博士書記官が解決に介入していたが、失敗。
- 国際会議
駐テルアビブエジプト大使がペレスと会見し、「ムバラク大統領はアレキサン드리アにての国際和平会議開催に賛成している。この會議でパレスチナ問題を解決しようと、エジプトは考えている」と至る。

- ・ バリケードを作つて抵抗。イスラエル警察、介入できず。
- ・ シャミル、訪米工作
- ・ 本日は、レーガンとの会談。レーガンも国際会議を提案したが、シミルは拒否。
- ・ 八七年度予算、国会提案さる。総額四〇〇億シェケル。
- ・ スーダンのマハディ首相がカイロ訪問し、ムバラクと会談。又メイリ追放後初のエジプトースーダン首脳会談。
- エジプト
- 二月一九日（木）

① アンマンにてヨルダン政府と開く
イスラエル・反イスラエル・レジスタンス
エレナーヌム郊外のマイカー病院

二月一六日(月)

- イスラエル
- ・反イスラエル・レジスタンス
- 西岸、ガザで、デモ、投石。ヘブ
- コノ丘のジェレゾン・キャノン
- 完全に戒厳令を差さり一語る。
- ・フセイン国王、英フィナンシャル
- タイムズ紙とのインタヴューで、「米国はイランとの武器取引きで

向。

イスラエル

- ・反イスラエル・レジスタンス
- ・レビ参謀長曰く「テルアビブでのテロを拡大させぬよう、注意すべき」

国際会議

- ・閣議で、シャミル対ペレスの論争開始。双方とも、相手が挙国一致内閣成立時の政治合意違反としてゆづらず。

三月二日(月)

- ・PLO再統一問題
- ・DFのハワト議長発言「全党派の支持なくとも、今年六月にはPNCを開催したい。リビアがPLO再統一のために援助してくれている。アブ・ジハドはじめ、カードルがリビアに結集し、討議中。アジマン合意は完全に終わつた。近くファタハがその旨声明するだろう」

リビア

- ・内閣改造。外相更迭。昨年九月に首相就任のタルヒが外相に横すべり。
- ・軍用機でエジプトに入った五人のリビア人、政治亡命を要求。エジ

三月三日(火)

リビア

- ・ランーイラク戦争終結のために援助する準備あり」と語る。また、国際会議の必要性でも両外相は一致したとされる。

三月四日(水)

- ・イランーイラク戦争
- ・イラク北部戦線で、イラク軍が、クルド地区攻撃。トルコも三〇機の爆撃機で、タルドの三カ村を爆撃、一〇〇人以上の村民を殺す。
- ・イラク政府は、この件については、コメントせず（両国は、反政府クルド・ゲリラ討伐のために相手国領内への攻撃を条件つきで合意している）。
- ・イラン、カルバラ七攻勢の開始を発表す。

イスラエル

国際会議問題

- ・ペレス曰く「リクードの妨害にもかかわらず、国際和平会議を通じたヨルダンとの直接交渉を追求する」

- ・経済・社会

プト政府は、この要求を検討中。

- ・カダフィ大佐、イランによるバグダッド砲撃を非難。対イラン支持には変化なしとするも。

- ・イラク外相、訪伊。伊外相は、「イランーイラク戦争

- ・カダフィ大佐、イランによるバグダッド砲撃を非難。対イラン支持には変化なしとするも。

- ・カダフィ大佐、イランによるバグダッド砲撃を非難。対イラン支持には変化なしとするも。

- ・カダフィ大佐、イランによるバグダッド砲撃を非難。対イラン支持には変化なしとするも。

- ① 公立病院ストー〇日め。病院では、医学生を動員して治療にあてている。ヒスタドルートとスト側代表が交渉し、その結果によってスト継続か否かが決まる。
- ② シャロン商工相、訪仏。

- ③ 公立病院ストー〇日め。病院では、医学生を動員して治療にあてている。ヒスタドルートとスト側代表が交渉し、その結果によってスト継続か否かが決まる。
- ④ フセイン国王、西独訪問。
- 中東和平国際会議、西岸、ガザへの経済協力について、コールと討議。
- 「ソ連国内で発展しつつある変革の動きは、国際世論に敏感になっている。したがって、絶対不可欠のソ連－イスラエルの対話回復の可能性が生じている。」

三月六日(木)

PLO

- ・WAFA（パレスチナ通信。アラファト系と反アラファト系の二

